

技術士 1 次試験に合格して



中村 美紗子

(なかむら みさこ)

勤務先

株式会社 ドーコン

技術情報部

〒004-8585 札幌市厚別区厚別中央 1 条 5 丁目 4 番 1 号

TEL 011-801-1590 FAX 011-801-1591

E-mail mn1758@docon.jp

■ 専門：建設部門

1. 自己紹介

私は学生時代に、コンクリート構造物のライフサイクルシミュレーションについて学んでいました。入社後は、インフラメンテナンスに関する業務に携わっており、最近では主に河川構造物の維持補修推奨ツールの開発・改修メンテナンスを行っています。

2. 受験に至るまで

技術士の資格については学生時代に聞いたことがありましたが、詳細を知ったのは、入社して上司や先輩方の話を伺ってからでした。私の所属している部署は、他部署の方と関わる機会が多いため、幅広い分野の知識を身につける必要があります。そのため、技術士試験の勉強をすることで、自分の専門以外の分野にも触れる機会を増やそうと考えました。また、私の周りには JABEE 認定校出身で一次試験が免除となっている同期が多く、早く追いつきたいという負けず嫌いな気持ちもあり、入社してすぐに受験を決意しました。

3. 受験体験

受験することを決めてからは、すぐに勉強を始めました。入社したばかりで日々の生活にも慣れない中、落ち着いて勉強する時間を取ることは難しかったため、通勤中に勉強するようにしていました。高校時代に毎日の往復 4 時間の通学を勉強時間に充てていた経験もあるので、往復 1 時間の通勤の間に勉強をすることは全く苦でなかったです。

試験勉強は、とにかく過去問を繰り返し解くことを中心としていました。ただ問題が解けるだけでなく、問題を理解することを心がけていたので、わからなかったり自信がない部分を自分なりにノートにまとめていました。試験直前には、まとめたノートを見返しながら、苦手な分野を中心に復習を行っていました。ノートにまとめるやり方は、勉強した量

が一目でわかるので、やる気を無くすことなく勉強を続けることができ、私には合っていたように思います。また、社内で行われていた技術士試験のための講習会にも積極的に参加していました。就業時間後、実際に合格した先輩方に、問題の解説や解き方などを丁寧に教えていただき、とても心強かったです。

試験前日に解いた過去問の出来が非常に悪かったため自信を無くしかけていたのですが、上司や先輩方の温かい言葉に励まされ、自分でまとめたノートを見返していたことで、落ち着いて試験に臨むことができました。今までになく時間に余裕をもって問題を解き終わったので、合格発表の日までドキドキしていたことを覚えています。実際に自分の目で一次試験の合格を確認したときは、ほっとしたのと嬉しかったのと、すぐに合格の報告をしました。

4. 今後に向けて

私一人だけでは、こんなに試験勉強を頑張ることはできなかったように思います。周りの方々に参考書を紹介していただき、講習会の時間を作っていただき、頑張れ！と応援していただいたことで今回無事一次試験に合格することができました。たくさんの方にお世話になり、本当に感謝しています。

二次試験を受けるまでには、まだまだ実務経験が必要なため、様々な業務を通じて知識の幅を広げていけるよう努力します。また、私の先輩方が講習会を行っていたように、後輩のためにできることを増やしていきたいと思っています。

将来的には、情報技術分野はもちろんのことですが、幅広い技術領域に通じた技術者になることが目標です。そのためにも、身近な技術士の方々を見習い、日々の業務から少しでも多くのことを学んでいきたいです。

技術士 1次試験に合格して



仁野 義章
(じんの よしあき)

勤務先

株式会社 市民風力発電
技術統括部

〒060-0061 札幌市中央区南1条西6丁目15-1
TEL 011-280-1550 FAX 011-280-1871
E-mail jinno@cwpc.co.jp

■ 専門：電気電子部門(電気設備)

1. 自己紹介

私は1970年に兵庫県尼崎市に生まれ、北海道の大自然にあこがれて移住して参りました。

現在は風力発電所の開発及びメンテナンスを行う株式会社市民風力発電に勤務しております。

写真は2014年12月に運転を開始した風車で、電気主任技術者として担当している厚田市民風力発電所です。弊社では北海道で6基目の風車となります。作業の際に風車の上から見える景色はなかなかのものです。

2. 受験に至るまで

技術士という資格については、以前から名称だけは知っていました。しかし私の周囲に技術士がいないこともあり、あまり取得の必要性は感じませんでした。

ところが最近、風車の仕事に携わる中で技術士の方にお会いする機会が多くなり、いろいろと話を聞いていくうちに技術士という資格に魅力を感じて、資格取得を目指すようになりました。そして勉強をしていく課程で技術者論理はとても興味深く感じ、技術士への思いはさらに強くなりました。

3. 受験体験

今回が初めての受験でしたが、正直なところ合格してほっと致しました。年齢的にもそう若くはないため、以前に比べ記憶力にも不安があり、受験勉強には少々苦労いたしました。

私の勉強法は、月並みですが、市販の問題集を何冊も解き、その中でこれだと思う1冊を何度も繰り返し解くというものです。この繰り返し勉強法で今回も合格に至ったと考えております。



厚田市民風力発電所(2014年12月完成)
出力2.0MW×2基 特高連係22kV
ローター(回転羽根)直径 約100m
ハブ(羽根の中心)高さ 約80m
[写真は、1号機ナセル上より2号機を撮影]

4. 今後に向けて

私は技術士会への入会を通して先輩技術士の方々との交流を深め、多岐にわたり勉強させて頂きたいという思いにより、青年技術士交流委員会、リージョナルステート研究委員会(水素・循環システム研究分科会)の活動にも参加させて頂くようになりました。

おかげさまで今では、実際に資格を生かし活躍されている多くの先輩技術士の方々にご指導いただき、受験勉強だけでは決して得ることのできない、たくさんのことを学ばせて頂いております。

目前に迫った2次試験に向けても多くのアドバイスを頂きました。そして日々の研鑽の必要性を改めて痛感しています。

今後は北海道での再生可能エネルギー普及に向けての研究・開発にも取組んでいきたいと思っております。

最後に親身になってご指導頂きました先輩技術士の皆様、そして投稿の機会を与えて頂きました広報委員の皆様、誠にありがとうございます。

技術士 1 次試験に合格して



古谷 裕子
(ふるや ひろこ)

勤務先

株式会社 ウェルシィ

ソリューション事業部 設計部

〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー 10 階

TEL 03-6478-7483 FAX 03-5487-6751

E-mail furuya.hiroko@ma.wellthy.co.jp

■ 専門：上下水道部門

1. 自己紹介

私はインドネシアで生まれ、埼玉で育ちました。子どもの頃より海外志向が強く、高校時代にアメリカでホームステイをしたのを皮切りに、学生時代は各国を旅行したり、研究活動でトルコの片田舎に毎年数か月滞在し、トルコ各地の土壌分布の調査などをしたりして過ごしていました。諸外国の人々の暮らしに触れていく中で、「日本で技術を学び、母国日本のためだけでなく生まれ故郷であるインドネシアや諸外国の人々へも還元したい」と考えるようになりました。

その夢をかなえるべく、卒業後は国内外で災害対策や水不足対策などを行っている水処理会社へ就職しました。現在は国内の病院や商業施設、学校などに地下水や河川水の飲料化設備、排水リサイクル設備などのプラントのご提案を行っています。

2. 受験に至るまで

「技術士」という資格は、学生時代にシニア海外ボランティアの募集情報を読んで知りました。

当時はゆくゆくは技術士を取ろうとは考えていましたが、まだまだ先のこととして捉えていました。

転職が訪れたのは昨年、企業側の人間として参加した就職活動フォーラムで他業界の話聞いた時でした。多くの技術士が活躍されているお話を聞き、技術で社会に貢献したいなら、なるべく早く技術士になって実績を積んでいかななくてはと触発され、今回の受験に至りました。

3. 受験体験

試験勉強を始める前に一次試験に合格している方にお話を聞いたところ、過去問題の類似問題が多い

とのことでした。そのため、受験対策には過去問題集を購入し、勉強しました。

適正科目と基礎科目は一般常識と大学までの知識である程度解くことができ、分からない問題に関しても出題パターンは決まっていますので、過去問題で考え方を覚えればさほど問題はありませんでした。

専門科目については業務内容だけでカバーできない範囲については過去問題集のほかに大学で使うような専門書で対策をしました。

勉強を進めていけばいくほど、自分自身の知識の未熟さが明らかになると同時に、新たな知識を知ることが楽しく、久々の試験勉強を楽しんで行うことができたと思います。

試験当日は空腹や満腹で集中力がそがれないよう、休憩時間毎に軽食をとるようにしました。その成果もあり、試験中は程よい緊張感の中、集中して試験に臨むことができました。

4. 今後に向けて

二次試験は一次試験とは比べものにならない程の難関だと聞いています。今回の一次試験合格は技術士人生のスタートラインに立つための準備運動を始めたに過ぎず、二次試験を受験するには知識も経験も不足していると強く感じています。

そのため一次試験受験後、より多くの技術を学べる部署への異動希望を出し、この春より新たな部署で業務をすることとなりました。周囲の方々にいただいた機会を最大限に活かして日々勉強を積み重ね、種々の状況に応じた技術提案が出来る技術者を目指して日々精進していきたいと考えています。